

# 川口 爽郎（かわぐち・そうろう）

## 1、プロフィール

昭和初期から教壇に立つ一方で生涯句作を続けた。戦後、板柳俳句会をはじめ各地で地方結社を起こすとともに中村草田男の「万緑」に入会。第33回万緑賞を受賞した。

<生没>

1908(明治41)年2月7日 ~ 1989(平成元)年5月20日

<代表作>

句集『鶴』(こうのとりの)

<青森との関わり>

津軽各地の高校の教壇に立って生涯を終えた。こうのとりの渡来発見は野鳥関係での功績とされる。

## 2、作家解説

俳人。号、爽郎。本名せき郎。明治41年2月7日父元三郎、母やよの長男として北津軽郡板柳村に生まれる。

父も俳人、号素酔。昭和4年札幌師範学校を卒業、檜山郡日明尋常高等小学校に勤務。10年古田冬草の勧めで句作。20年北海道の「緋衣」(新田江衣主宰)同人となる。同年弘前高女に転任。22年会津正治・大田鉄杉らと板柳俳句会を結成。24年仙台の「俳句饗宴」(永野孫柳主宰)、「万緑」(中村草田男主宰)に参加。25年板柳高校に転任。成田千空らと五能線沿線俳句懇話会を結成。機関誌「津軽野」の発行人となる。8月「暖鳥」同人となる。26年東奥日報社主催県下俳句大会に選者として来県した中村草田男を板柳に招き歓迎句会を開き、県内滞在中は同行。28年万緑青森支部結成。33年万緑全国大会を青森で開く。38年鱒ヶ沢高校に転任。42年句集『土塊』出版。44年定年退職。弘前柴田女子高校講師となる。45年聖愛高校講師となる。弘前市桔梗野に転居。46年日本野鳥の

会会員。俳人協会会員。53 年船水以南らと弘前吟行俳句会を作る。この頃鳥の句が多くなる。55 年教職を退く。57 年弘前俳句連盟を結成、代表となる。61 年第 33 回万緑賞受賞。平成元年5月 25 日呼吸不全のため死去。享年 82。賢晃院教阿せき郎居士。8月 25 日句集『鶴』刊行。翌年5月 10 日、句碑が津軽富士見湖畔に建つ。碑の句「みちのくの山は美し鶴帰る」

中村草田男の推賞した句。

「流木の夏日に赤肌傷熟めり」「泳ぎゆく抜手外海へ基地の飛機」

### 3、資料紹介

○句集『鶴』

図書

1989(平成元)年8月5日

190mm×130mm

本阿弥現代俳句シリーズ 14 として刊行。昭和 51 年から平成元年までの 374 句を収める。跋は成田千空。爽郎の第2句集で、写実の目と無形世界を見る目が重なり、透徹した境地を示す。晩年の指向を示し、鳥の句が多い。